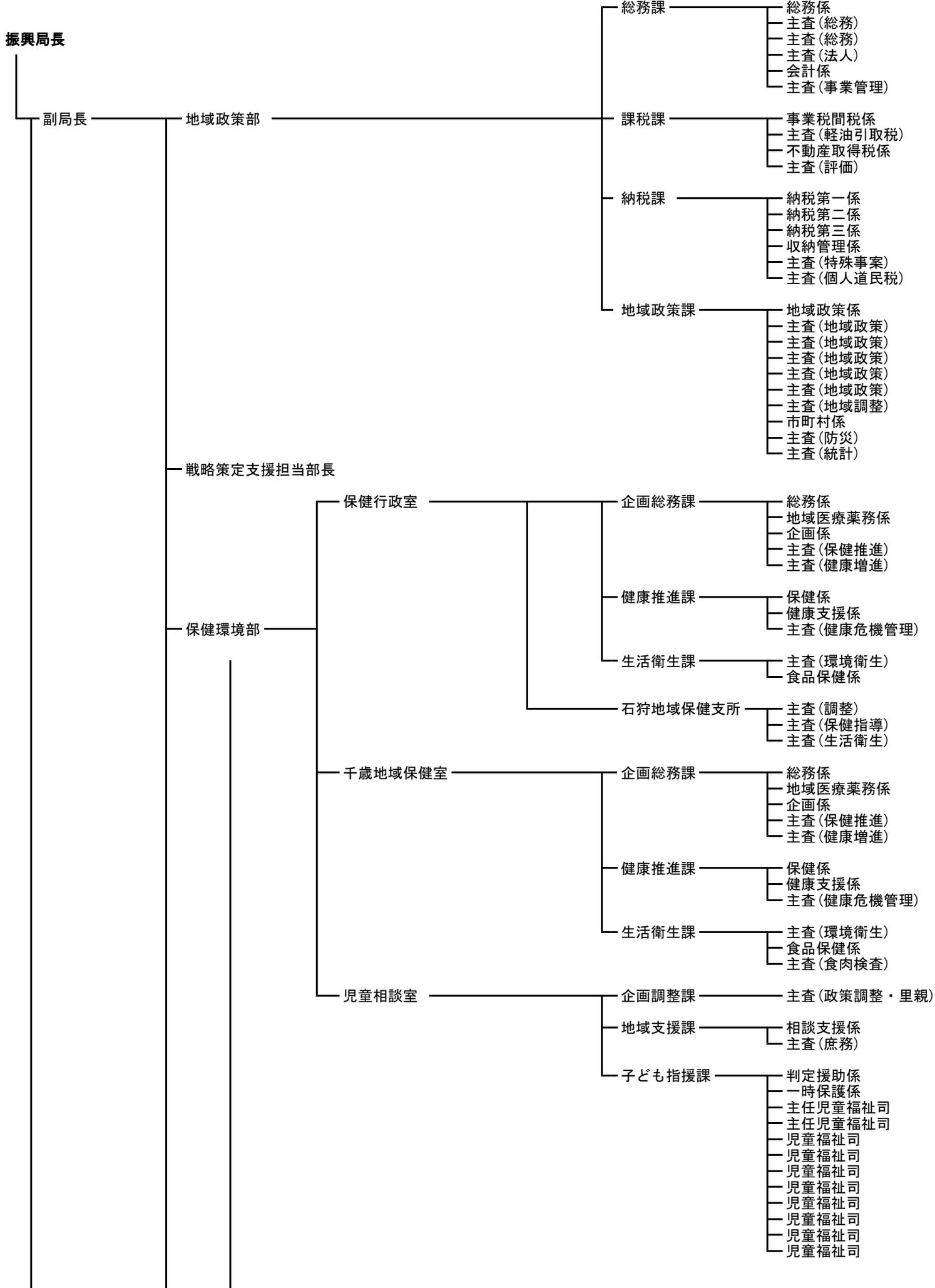
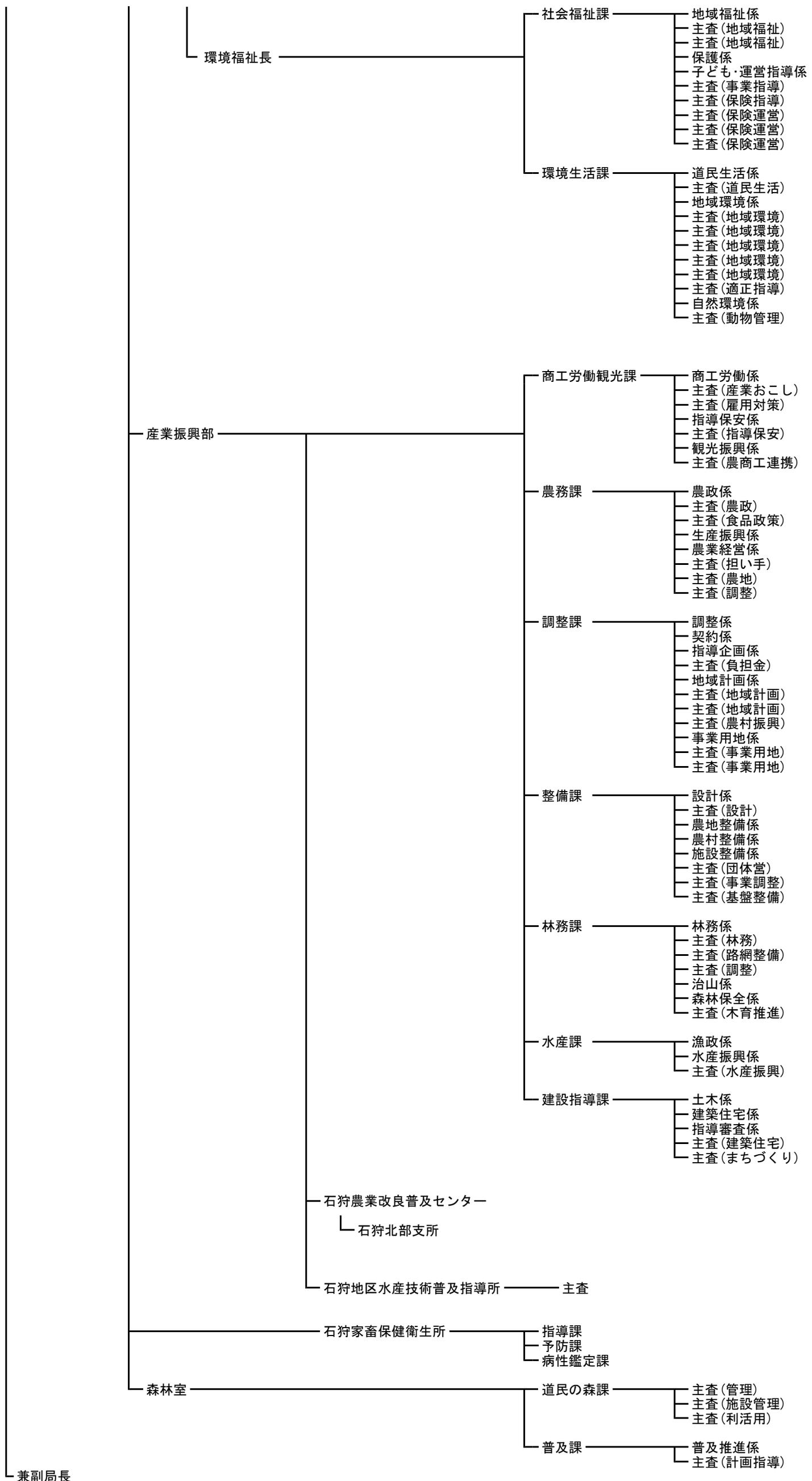


3 石狩振興局組織図 (平成27年6月1日現在)

所在地 札幌市中央区北3条西7丁目
 郵便番号 060-8558
 電話番号 011-231-4111
 F A X 番号 011-232-2555





兼副局長

4 管内市町村の人口、面積等

市町村名	人 口						世 帯 数						面積 H26.10.1現在 国土地理院 (km ²)
	国勢調査					住民基本 台帳 (H26.1.1)	国勢調査					住民基本 台帳 (H26.1.1)	
	H12	H17	H22	増減率			H12	H17	H22	増減率			
				H12~H17	H17~H22					H12~H17	H17~H22		
江別市	123,877	125,601	123,722	1.4	-1.5	120,805	47,658	50,425	51,170	5.8	1.5	54,704	187.38
千歳市	88,897	91,437	93,604	2.9	2.4	95,481	33,532	35,983	38,541	7.3	7.1	45,925	594.50
恵庭市	65,239	67,614	69,384	3.6	2.6	68,893	23,660	25,662	27,634	8.5	7.7	30,856	294.65
北広島市	57,731	60,677	60,353	5.1	-0.5	59,931	20,305	22,362	22,991	10.1	2.8	26,388	119.05
石狩市	54,567	60,104	59,449	10.1	-1.1	59,986	18,688	21,925	22,603	17.3	3.1	26,837	722.42
旧石狩市	54,567						18,688						
旧厚田村	2,804						1,032						
旧浜益村	2,363						1,091						
当別町	20,778	19,982	18,766	-3.8	-6.1	17,606	7,723	7,579	7,400	-1.9	-2.4	7,625	422.86
新篠津村	3,940	3,737	3,515	-5.2	-5.9	3,377	1,172	1,158	1,086	-1.2	-6.2	1,419	78.04
合計	420,196	429,152	428,793	2.1	-0.1	426,079	154,861	165,094	171,425	6.6	3.8	193,754	2,418.90

※ 石狩市、厚田村、浜益村は、平成17年10月1日に合併。また、平成17年の国勢調査は平成17年10月1日現在。
このため、石狩市の国勢調査数値については、H12は旧石狩市と同じ数値を、H17及びH22は旧3市村の合計数値を記載した。

5 地域開発等の指定状況

市町村名	過疎地域	自然公園	特別豪雪	山村振興	農業振興
江別市		○(道立)			○
千歳市		○(国立)			○
恵庭市		○(国立)			○
北広島市		○(道立)			○
石狩市	△	○(国定)	△	△	○
当別町			○		○
新篠津村	○		○		○

※「△」は、一部指定であること。

「自然公園」欄の「国立」は国立自然公園、「国定」は国定自然公園、「道立」は道立自然公園を示していること。

6 管内市町村の沿革

区分 市町村名	市町村制施行 年 月 日	沿 革	市 町 村 名 の 由 来
江別市	明治39.4.1 2級町村制 明治42.4.1 1級町村制 大正 5.1.1 町制施行 昭和29.7.1 市制施行	明治 4年 対雁村を設け、仙台涌谷領から農家21戸76人が移住。 明治11年 屯田兵10戸56人が入地、江別村が設けられる。 明治13年 江別、対雁両村戸長役場設置。	アイヌ語「イブツ」(大事な所への入口)、「イベチプト」、または「ユベオツ」(さめのいる川)から転訛したものである。
千歳市	昭和14.4.1 1級町村制 昭和17.5.1 町制施行 昭和33.7.1 市制施行	万治元年 志古津弁天堂建立。 文化 2年 箱館奉行羽太正頼「シコツ」を「千歳」に命名。 明治 5年 開拓使千歳出張所開庁。 明治13年 戸長役場開庁。	旧地名は、アイヌの人たちの言葉でシコツと呼ばれていた。シコツとは「大きくぼ地、または谷」という意味で、大空に鶴が舞い、川にはサケが溯る、自然にあふれた大地であった。 文化2年(1805)年、シコツ場所担当の箱館奉行調役並山田鯉兵衛嘉充が箱館奉行羽太正頼に、新しい地名を付けるよう依頼したところ、シコツの地には多くの鶴がいることから「鶴は千年、亀は万年」の故事から「千歳」と命名した。
恵庭市	大正12.4.1 1級町村制 昭和26.4.1 町制施行 昭和45.11.1 市制施行	宝暦 5年 飛驒屋、武川久兵衛が漁川上流でエゾマツ造林のため入地。 明治30年 漁ほか1カ村戸長役場設置。 明治39年 漁村、島松村を合わせ恵庭村とし2級町村制。	明治39年4月1日、漁、島松の両村が合併し、恵庭と名づける。 南方に聳えている恵庭岳の名をとったものである。
北広島市	明治35.4.1 2級町村制 大正10.4.1 1級町村制 昭和43.9.1 町制施行 平成 8.9.1 市制施行	明治 6年 中山久蔵が島松川上流に入地。 明治16年 和田郁次郎ら団体移住地調査。 明治27年 豊平村より分離、戸長役場設置。	明治16年、うっそうとした原始の木々に囲まれたこの地に村をつくらうと広島県の人、和田郁次郎と谷川奎左エ門らが入植し開拓されたので、開拓者出身地広島県の名をとったもの。
石狩市	明治35.4.1 2級町村制 明治40.4.1 1級町村制 平成 8.9.1 市制施行	宝永 3年 能登国の住人村上伝兵衛が鮭漁支配。(旧石狩市) 宝永 3年 松前藩、石狩、厚田、浜益に3場所設置。 明治 4年 開拓使石狩出張所設置。 明治 5年 石狩、厚田、浜益に戸長役場設置。 平成17年 厚田村、浜益村と合併。	市を貫流する石狩川をアイヌは単にイシカラと称していた。中川人はこの川の河口のあたりが川筋最も屈曲回流して、上川が見えないために名付けたといい、上川人は美しく作られた川の意味で大昔コタン・カラカムイ(国作神)が、おや指で大地を画きこの川を作ったので名付けたという。
当別町	明治35.4.1 2級町村制 明治40.4.1 1級町村制 昭和22.7.1 町制施行	明治 4年 仙台岩出山領主伊達邦直が家臣を率いて移住。 明治12年 戸長役場設置。	当別はアイヌ語トウベツから転訛したもので、この意識は沼からくる川の意である。
新篠津村	大正 4.4.1 2級町村制	明治16年 樺戸集治監の看守熊田某開拓の一鍬。 明治29年 篠津村より独立、戸長役場設置。	明治16年、篠津村に属し江別ほかの2カ村戸長役場の管轄にあったが、明治29年2月、篠津村から独立し、新篠津村と名付けたもの。

7 管内市町村の変遷

